

会議記録簿

会議名	平成30年度 第3回千曲市地域公共交通網形成計画 策定分科会	受託者	特定非営利活動法人 SCOP
		作成者	牧野 透太
場所	千曲市役所更埴庁舎 講堂		
日時	平成30年7月31日(木) 14:00~15:45		

1 開会

2 分科会長あいさつ

3 計画策定支援事業者紹介

- ・計画策定支援事業者として SCOP を紹介

4 会議事項

(1) 前回からの経過報告について

- ・事務局より説明

(2) 基礎調査中間報告及び基本方針について

- ・基礎調査中間報告書について事務局 (SCOP) より説明

《質疑》

(委員)

交通空白の評価について、タクシーも公共交通と位置づけるべきではないか。また、東部地区はデマンド交通があることも考慮すべきでないか。

(SCOP)

デマンド交通については、交通空白の評価に（公共交通カバー圏として）加えたい。タクシーについては、本評価に入れていない。この旨、単に“交通空白の評価”だけではなく、タクシーを含まない点を明記したい。

(委員)

アンケート調査の内容を教えて欲しい。本資料の調査報告書はそのまま計画書に組み込まれるのか。

(SCOP)

アンケートについては、調査結果とともに次回会議にて報告する。

本調査結果はあくまで中間報告であり、計画書には、この一部に加え、現在のアンケート調査等の結果を掲載することを想定している。

(委員)

サービスレベルの評価基準とは一般的なものなのか。例えば乗継ぎ時間 30 分以内といった基準は、根拠があるか。地域に合わせたサービスレベルは可能か。

(SCOP)

サービスレベルの評価はオリジナルである。乗継ぎ時間などは、高齢者、通学者など利用者によって

も意見が異なることが、過去に他市での調査から分かっている。他の文献も参照してみるが、一定の基準において評価したものとして扱っていただきたい。

(委員)

観光や福祉分野の輸送についても、本計画で取り扱うのか。その場合、この基礎調査と同等の調査を行うのか。観光については、生活交通と併用できるのか、議論が必要と考えるが。

(SCOP)

福祉分野については、公共交通と連携しつつ、一定のところで対象者を分ける必要がある。観光分野については、ヒアリング等で今後観光サイドから必要な交通網を検討していきたい。ただし、優先順位はあくまで生活交通が高いと考えている。

・計画のたたき台について事務局（SCOP）より説明

(委員)

鉄道、タクシーとの連携について、大循環線が鉄道と並行して走っている。接続を考えるべきではないか。

(SCOP)

今後の策定委員会で検討していきたい。

(委員)

連携計画の実施事業を次の網計画に反映するべきかではないか。

計画の基本方針として市内での通勤通学に対応するのか。

(SCOP)

必ずしも、バスで対応する必要があるのか、検討する必要がある。この点アンケートの結果も活用したい。

(委員)

今までの連携計画と大きく変化がないのではないか。抜本的になにか形を変える必要はないか。持続可能であるためには、利用者の負担を増やす、受益者負担とする必要もある。

大循環線ではなく、屋代駅、戸倉駅の2拠点を中心として放射状のような路線網も考えられないか。

新庁舎については、交通拠点としての機能を確保すべきである。現在の設計では、バス停、タクシー乗り場が施設から離れており拠点となり得ない。

(SCOP)

いただいたご意見は、今後の参考にしたい。2つの駅が拠点であることは、間違いはないが軸をどのように設定するかは議論が必要である。

(事務局)

新庁舎の設計については、都市計画部門にも確認する。

(委員)

再編実施計画を策定する予定はあるか。

(事務局)

現在は予定していない。

(委員)

交通 IC カードについては、既存のものを使うのにしてもニーズや導入コストなどを詰めていく必要がある。

地域負担のあり方については、他の事例を参考にしてみてもどうか。県内では松本市や上田市で地域が負担して公共交通を動かしているという。

(SCOP)

松本市については、住民負担というところまでは至っていないが、住民が収支に責任を持っている。また、県外では、氷見市で住民の会員公共交通がある。

5 その他

6 閉会

以上